

◆俯瞰メルマガ第 90 号◆

俯瞰工学研究所の松島克守のメールマガジンです。俯瞰メール 90 号をお送りします。

◆時候のご挨拶◆

梅雨たけなわですが、所によっては災害的豪雨です。避難勧告が徹底しましたから大きな人的被害はないと思いますが。フランスの摂氏 45 度を超す猛暑のニュースを見ていると、気候変動の異常が想定以上に進んでいることを実感させられます。フランスはエアコンが普及してないので見ている可哀想です。

●G20 とは何だったのか

- 緊迫するイラン情勢とトランプ政権の混乱
- 米中貿易戦争はどうなる
- 今どきのオーディオシステムの完成
- 第 68 回俯瞰サロン 開催案内
- 俯瞰のクッキング“油談義”
- 俯瞰の書棚 “世界史の新常識”
- 雑感・私感

◆G20 とは何だったのか◆

大阪の G20 は二日間の日程を終了しました。しかし、あれは何だったのだろうかと思います。自国中心主義の 20 カ国が集まれば、何一つ一致して推進する実効性のある話は纏まるわけがありません。首脳宣言を見るとあまりにも空虚です。

単なる華やかな政治ショーであって、共通の課題を話し合う場ではなくなっていました。もともとリーマンショックの後をどうするかという、強い共通の課題があって始まった G20 ですが、すっかり変わってしまったようです。世界がアメリカ、中国、ロシアそして EU という世界に完全に分裂してしまったためでしょう。トランプ政権が自国第一主義を振りかざして、中国、ロシア、EU と対立関係を作ってしまった。結果として孤立し、アメリカのリーダーシップは著しく損なわれました。偉大なアメリカを目指すトランプ大統領は、結果として超大国の地位を手放すことになりました。

G20 の別の面は、各国首脳が高密度に二国間会談を展開する場です。今回注目された二国間会議は米中会談、米ロ会談でしょうか。米中会談は貿易戦争を抱えている中で行われましたが、とりあえず一時休戦して交渉再開という、最低限の結果は出しました。米ロ会談はお互いに主張を述べただけですが、軍縮交渉に応じる用意があるというプーチン大統領の言葉が結果でしょうか。その他の会談もお互いの主張を交換し、とりあえずの友好関係を取り繕うかのようでした。

気になったのは、驚くほど EU の存在感がなかったことです。EU は欧州議会選挙の結果を受けて首脳陣が交代する時期ですし、ドイツのメルケル首相も政権の足元がぐらついています。フランスのマクロン大統領も国内がグチャグチャですからリーダーシップを取れるはずがありません。イギリスのメイ首相に至ってはほと

んど辞任したのも同然ですから、記念撮影に加わる程度の存在感です。大きく分裂した国際社会を取りまとめることができるのは EU ですが、その EU がこの状態ではますます亀裂は深まります。とって EU はブレグジットを抱え、各国ともに EU に懐疑的なポピュリストが台頭し、今後も強力なリーダーシップを発揮できるような状態ではありません。

この環境の中、G20 で日本が出来る事は、おもてなし以外にほとんどありませんでした。今、日本がすべき事は、日米、日中、日露の二国間の関係を強化していくことです。それぞれ安倍首相の個人的な関係があるとされていますが、G20 の最中にトランプ大統領の日米安保破棄のニュースが流れるなど、ドナルド・シンプウの関係もどこまで信じていいのか解りません。これまで見てきたトランプ大統領という人格では相互に信頼する関係は難しそうです。いわば番長のトランプにポチのように追従する形になってしまいます。

日ロ関係についても、プーチン大統領は G20 直前にロシアテレビのインタビューで「北方領土を日本に引き渡す）計画はない」、「南クリール諸島の施設からロシア国旗を下ろすことはあるか」と質問されると、「そのような計画はない」と答えています。安倍外交の実態も心配です。

ブレグジットが起これば、必然的に日英関係は深まるでしょう。英国は依然としてアジアに影響力を持っていますから、日英関係の強化は安全保障の面でも重要です。米中貿易戦争の結果、急速に日中関係の改善が進んだのは幸いです。日本の課題は弱体化したとはいえ、EU との連携強化ではないでしょうか。この連携で国際社会に課題解決を働き掛けていくことです。文化的には、アメリカよりもヨーロッパの方が日本にとって近いと思います。アメリカの歴史は学校で学びませんが、ヨーロッパの歴史はギリシャ・ローマから 20 世紀に至るまで学びます。

北方領土返還「計画ない」プーチン露大統領、訪日前に表明

<https://www.sankei.com/world/news/190622/wor1906220022-n1.html>

◆緊迫するイラン情勢とトランプ政権の混乱◆

なぜか安倍首相がイラン訪問した時から、一気にイラン情勢の緊張が高まりました。まず驚いたことに、12 日にアメリカはイランに対する新しい制裁を発表しました。そしてハメネイ師との会談当日 13 日には、日本のタンカーを含む 2 隻がホルムズ海峡で何者かに襲撃されました。

イラン政府は直前に外務大臣を日本に派遣して、イラン訪問を歓迎すると伝えたと思います。アメリカのトランプ大統領も安倍首相のイラン訪問を歓迎すると言っていました。ここがトランプ大統領の危ないところです。と言いながら、直前に新しいイラン制裁発表するわけです。

可哀想なのは安倍首相です。面目丸つぶれです。アメリカとイランの交渉を仲介するという華やかな外交的成果を夢見ていたでしょうが、結果は無残です。

会談の内容も寂しいです。「あなたの善意と真剣さに疑問を差しはさむ余地はありませんが、米大統領があなたに伝えたということに関していえば、トランプはメッセージを交換するに値する人物とは考えていません」と、「託すべきメッセージはない」と伝えたと報道されています。あなたが出る状況ではないと、子供のように諭されるのでしょうか。

トランプ大統領はともかく、アメリカとイランの戦争を期待している勢力が存在するのでしょうか。イランを叩いて欲しいという勢力です。またイランの中に安易にアメリカと妥協すべきでないという勢力もあるのでしょうか。ホルムズ海峡の襲撃は、依然として謎に包まれています。

イスラム革命防衛隊は、絶対的権威のハメネイ師の直属の軍隊でイラン政府が制御できません。いわば戦前の日本軍のような位置づけですから、過激派の一部が暴走した可能性もあります。

アメリカは手際よくイラン革命軍の映像を公表して、イランに責任があると主張しましたが、EUも日本も証拠として不十分とし、きちっとした証拠を出すべきだと主張しました。珍しく日本はアメリカの主張を認めませんでした。貴重なイランとの友好関係を優先したのでしょうか。

一方イランは、領空侵犯の一機 100 億円以上するアメリカの無人偵察機を撃墜しました。これに対しマイク・ポンペオ国務長官とジョン・ボルトン大統領補佐官が強硬策を主張し軍事的な報復を求めたとされますが、国防省幹部は慎重でドローン撃墜に軍事行動で対応すれば、事態は一気に悪化すると主張したようです。議会関係者も慎重な対応を求めたと報じられています。しかしトランプ大統領は、一旦は軍事行動を支持して許可を出したが、なんと 10 分前に中止を命令したと Twitter に書き込みました。火遊びが過ぎますね。

さらに驚く事は、マティス前国防長官の後任への起用を決めていたシャナハン長官代行が、指名を辞退しました。シャナハン氏は米航空大手ボーイングの上級副社長だった人で、軍歴や政治経験がありません。国防長官という戦争の司令塔をあまりにも軽んじていると思います。国防長官不在で戦争を始めるというのも、各方面から懸念を持たれているようです。

トランプ大統領はそもそも、ベトナム戦争中に計5回徴兵を回避した人です。クリントン大統領もブッシュ大統領、チェイニー副大統領もベトナム戦争の徴兵を回避した人です。このように、口では愛国、タカ派で自分は戦争に行きたくない人を「チキンホーク」と呼び、腰抜け野郎という揶揄的な意味で用いられるとの事です。こういうアメリカの大統領に世界は翻弄されています。日本でも、声高に国家主義を主張する人には注意が必要ですね。

米 イランに新たな制裁発動 このタイミングで譲歩引き出し狙い

https://www.fnn.jp/posts/00419190CX/201906131210_CX_CX

ホルムズ海峡、日本タンカー襲撃事件の“真犯人”は？

<https://nikkan-spa.jp/1581369>

安倍総理イラン訪問は失敗か？

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/65273>

トランプ氏、イラン爆撃をいったん承認し取りやめ 本人もツイート

<https://www.bbc.com/japanese/48715280>

シヤナハン氏が国防長官辞退＝代行にエスパー陸軍長官

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019061900124&g=int>

虚偽診断で徴兵回避か トランプ氏、ベトナム戦争

<https://www.sankei.com/world/news/181227/wor1812270007-n1.html>

チキンホーク

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%81%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%82%AF>

◆米中貿易戦争はどうなる◆

世界中が注目した大阪での米中首脳会談の結果は、とりあえずほっとした感じになりました。中国からの輸入品およそ 3000 億ドル分に追加の関税を上乗せする措置は当分見送る、通信機器大手ファーウェイについて政府の許可なく取り引きすることを禁止する措置も緩和する、ということでした。水面下で中国がいくつか譲歩したと思いますが。

米中貿易戦争は世界経済に影を落としていましたから、世界中でとりあえずほっとしたのではないのでしょうか。

アメリカ国内の反対も強かったはずですが。まず農業団体は大きな痛手を受けていますから、制裁の強化は大反対でしょう。産業界も大反対だったようです。とりわけ半導体業界は、中国輸出を禁止されると業績に大きなインパクトを受けます。消費財の小売業界も値上げせざるを得ません。売り上げの減少につながります。景気後退にもつながります。

もしスマートフォンの関税が上がり、値上げされれば大騒ぎになるのは必定です。スマートフォンは今や生活必需品です。

といってアメリカが求めている知財保護や補助金、そして技術移転の強要など中国の制度改革は譲れません。これに対しては、与党共和党も民主党も強硬論で固まっているようですから、安易に妥協できません。中国は、制度改革は内政干渉と言って断固として拒絶しています。従って米中貿易戦争は長引くのではないのでしょうか。

一方、この米中貿易戦争の影響は色々なところに出ています。中国の企業が、「脱中国」でベトナムをはじめとした東南アジアに生産の拠点を移し始めています。すでに中国の賃金は高騰していますから、この生産拠点の移転はこのままトレンドとして続くのではないのでしょうか。直近では、ベトナムがその受け皿になって思わぬ経済成長の恩恵を受けています。中国に生産拠点を持つ海外企業もサプライチェーンの見直しを行

い「脱中国」の動きは止まる事はないと思います。この動きは、長期的に中国経済の成長を押下げることになるでしょう。

それだけでなく、すでに中国は消費の減速に直面しています。マンション、自動車、そして果物に至るまで、需要は減退していると言われていています。特に自動車の販売は、このところ対前年比を下回ることが続いています。自動車については、次のような構造的な問題があるかもしれません。

経済が成熟した先進国、すなわち北米、ヨーロッパ、日本では国内の乗用車の保有台数は人口の半分です。例えば日本の場合人口 1 億 2,000 万人ですから、日本国内の乗用車の総数は 6,000 万台です。乗用車は 12 年間使用できるとされていますから、買い替え需要は 500 万台になります。この 10 年以上にわたって実際の販売台数も約 500 万台で推移しています。北米でもヨーロッパでもほぼ同じです。

中国の場合は、総人口というわけにいきません。中間層を何人と見るかです。中国共産党は 4 億人の中間層があると言っています。私は、車を買える中間層の数は 5 億から 6 億人いてもおかしくないと思っています。仮に 6 億人とすると、中国の乗用車保有総数は 3 億台となります。年間販売台数は 2,500 万台です。

まだ新規もあるでしょうが、既に過去 10 年間の自動車生産総台数(乗用車+商用車)は 2 億 5,000 万台くらいです。そして 2016 年以降は、車の販売台数はおよそ 2,800 万台で成長していません。という事は、そろそろ市場の飽和点に近づいているのかもしれない。あくまでも私の勝手な仮説です。

あえて言えば、米中貿易戦争があってもなくても、中国は 5%程度の経済成長率で経済と社会は成熟していくのではないのでしょうか。アメリカがハイテク技術を遮断しても、その代替え技術を国産化していくでしょう。必要は発明の母です。かつて尖閣列島の問題で中国が日本に対してレアアースの輸出を制限したときに、日本のエンジニアは代替技術を開発しました。

米中貿易戦争は長期化すると思いますが、その中で中国経済は成熟していくと思います。日本もかつて石油ショックの後、ものすごい勢いで省エネルギー技術を開発し、スミソニアン協定で大幅な円高を強いられると猛烈な勢いでコスト削減を進め、100 円でも利益を出せる製造システムを作りあげました。振り返ってみると、1980 年代は日本の製造業の黄金時代でした。

米中首脳会談 貿易交渉再開で一致 米は追加関税見送り

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20190629/k10011974651000.html>

米中衝突ニュースまとめ

<https://www.nikkei.com/theme/?dw=18040901>

米中貿易戦争、中国の中小メーカーを「脱中国」へ走らせる

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/business/2019/06/post-12426.php>

ベトナムの 4~6 月成長率 6.71% 貿易戦争が追い風

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO46744460Y9A620C1FF8000/>

「ファーウェイ容認」、なぜトランプは変節したのか

<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/56871>

米中会談で習氏に逆風、国内消費が減速

<https://jp.wsj.com/articles/SB11478348302550594552304585388384286317358>

中国自動車市場の動向

https://www.smbc.co.jp/hojin/international/global_information/resources/pdf/smbccnrep_02_017.pdf

◆今どきのオーディオシステムの完成◆

前回、Amazon の Echo Link Amp を購入して手持ちのスマートスピーカーの EchoPlus と連携させ、10 年以上前に購入してあまり使っていなかったネットプレーヤー (Cambridge Stream Magic) とスピーカー (PMC Twenty) を組み合わせて、今風のオーディオシステムを作った話をしました。その後 Echo Link Amp の光信号入力端子に、これまた 10 年以上前に購入して、このところ使っていなかったパイオニアのユニバーサルプレーヤー (DVD-AX5AVi) を接続しました。

実は 10 年ほど前、引越しを期に新しいオーディオシステムを組み上げました。そして当時の高音質のスーパーオーディオ CD や DVD オーディオといった、今風に言えばハイレゾ音源のディスクをいくつか買いましたが、いずれも低調になって、スーパーオーディオ CD はともかく DVD オーディオは発売中止になり、再生するプレーヤーも発売されなくなりました。2005 年に発売のユニバーサルプレーヤーは、ブルーレイ以外はすべて再生できるという貴重な代物です。

ネットのハイレゾ音源はネットプレーヤーで、手持ちのハイレゾディスクはこのプレーヤーで再生出来るようになりました。久しぶりに DVD オーディオを聞いてみるとネットのハイレゾ音源を超える臨場感がありました。ネットはいろいろな経路を辿ってきますから、その分劣化するのでしょう。

これまた 10 年以上前のビクターのスーパーウーファー (SX-DW77) も、メインのオーディオシステムから繋ぎ替えました。低音がぐっと充実します。クラシックはいいですが、jazz は録音段階で低音が強調されていますから、響きすぎて夜間はスイッチを切ります。それぞれ新品で購入した時は、かなりの金額でしたが、ネットで中古を見ると当時 20 万のユニバーサルプレーヤーは 1 万円くらいです。中古で買い集めるとかなり安く高級オーディオが作れそうです。

さらに今風として、Bluetooth のワイヤレスのイヤホンを買いました。価格と性能から深圳の ANKER soundcore を選びました。これと iPhone で、外で手持ちの音楽を聴けるようにしました。ANKER 社はユーザーから高く評価されています。

10 年以上前にオーディオシステムを作った時に、当時手持ちの 200 枚以上の CD をコンピュータに取り込み、それを外付けのネットワーク HDD (NAS) に入れました。どこからでも聴くことができます。実はあまり

使っていないで、新しく iPhone のアプリを入れると NAS のファームウェアが古いので使えないというメッセージが出ました。

そこで NAS のファームウェアのバージョンアップをすることになりましたが、一時は途方にくれました。なにしろ 10 年前に苦労して、QNAP という台湾のメーカーの NAS を設定しましたが、それ以来全く触っていません。マニュアルがどこにあるかもわかりません。

雑多な情報は dropbox に入る習慣がありますから、dropbox の中を“QNAP”で検索すると保証書がありました。これで型番が TS-119 と分かり、QNAP 社のサイトに行き、同梱されていた CD にあったソフトウェアの最新版を入手し、少しずつ思い出して、ファームウェアのバージョンアップをすることができました。

この時感激したのは、QNAP 社のユーザーサポートのサイトが実によく出来ていて、10 年以上前の製品のサポートもきちんとしていることです。日本のメーカーとは段違いです。日本のメーカーはユーザーサポートの情報提供が非常に貧弱です。あえて名前を出すとソニーサイトと QNAP では比べ物になりません。そもそも、ほとんどファームウェアのバージョンアップなどありません。日本の電機産業が凋落したのは色々な原因があると思いますが、顧客と真摯に向き合うという姿勢が不十分だったと言えるかもしれません。ともかく現在では、台湾や中国のメーカーの水準は日本を凌駕しています。

ということで「今風のオーディオシステム」が完成しました。ただシステムを作ってもそのうちにほったらかしになる危険があります。知識と機器を集めて組み上げるプロセスが好きですから。その時間が楽しい時間なのです。

音楽を聴く、音を聴くという 2 つのモードの切り替えが必要です。ややもするとオーディオマニアは、音を聞いて音楽を聞かないこととなりますから。音域の広いチャイコフスキーのバイオリン協奏曲を聴きましたが、結構高音域も聞こえていてほっとしました。

◆第 68 回俯瞰サロン開催案内(7 月 23 日)

東急電鉄 執行役員 東浦亮典さんに聞く、「私鉄 3.0～電車に乗らなくても儲かる未来～」

昨年末に「私鉄 3.0-沿線人気 No.1 東急電鉄の戦-略的ブランディング」(ワニブックス PLUS 新書)を上梓された東浦亮典さんにお越しいただきます。提言されている、私鉄が目指すべきさらなる「未来=3.0」。「顧客との決済やポイントを基盤とした新たなサービス」「鉄道、バスの次に来る新しいモビリティ」「ベンチャー企業支援」などを、現役執行役員の視点から伺います。

■日 時： 2019 年 7 月 23 日(火)18 時 30 分より(18 時受付開始)

■会 場： 品川インターシティ会議室3 東京都港区港南 2-15-4

<http://www.sicity.co.jp/download/accessmap.pdf>

■参加費： 講演会のみ 1,000 円 / 懇親会 3,000 円

当日、受付にて申し受けます。

■定員：50名程度（定員になり次第、申込みを締切ることがあります）

■お申込み専用サイト:

https://ssl.form-mailer.jp/fms/92a26e9a623580?fbclid=IwAR1F2bPHor4lpqL5_Tci4Bi4lC6y3-v9gYXGedHNp3NnScbT7AKwzsnHv_c

◆講師プロフィール

東京急行電鉄執行役員 渋谷開発事業部長。

1961年東京生まれ。1985年に東京急行電鉄入社。自由が丘駅駅員、大井町線車掌研修を経て、都市開発部門に配属。その後一時、東急総合研究所出向。復職後、主に新規事業開発などを担当。町田市の『グランベリーモール』、賃貸コンセプトマンションブランド『TOP-PRIDE』、『クリエイティブシティコンソーシアム』、『次世代郊外まちづくり』、『東急アクセラレートプログラム』などの立ち上げにも関わる。また東急沿線の都市開発戦略策定、マーケティング、プロモーション、ブランディング、エリアマネジメントなども担当。2016年より執行役員。都市創造本部運営事業部長を経て現職。

著書:

- 私鉄 3.0-沿線人気 No.1 東急電鉄の戦略的ブランディング(ワニブックス PLUS 新書)

<http://u0u0.net/Y9Bz> (AMAZON への短縮 URL)

◆俯瞰のクッキング “油談義” ◆

これまでも何回か食用油について記事を書きましたが、今回は料理に使う油のセットを変更したので油談義をしましょう。

食用油には飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸があります。飽和脂肪酸は動物の油、ココナツオイルなどです。これはかなり知られてきましたが、飽和脂肪酸の中でもマーガリンやショートニングは摂取してはいけない油です。昔は植物性で健康に良いと推奨されたマーガリンですが、欧米では使用禁止状態です。気を付けなくてはならないのは、ショートニングです。市販のパンやケーキに使用されている可能性があります。これは表示されていません。週刊誌は食べていけない食品を時々特集していますから、それを見るのもいいでしょう。私は基本的にパンとケーキは食べません。

動物脂肪は、霜降り肉や豚のバラ肉はあまり取りませんが必要な油でしょう。豚のバラ肉は、角煮がおいしいので時々食べます。トンカツも時々作りますが、ロースの背油は取り除きます。ココナツオイルは購入しましたが、香りが独特でどんな料理に向いているのかまだわからず、ほとんど使っていません。

不飽和脂肪酸はオメガ 9 系、オメガ 6 系、オメガ 3 系に分かれます。いずれも必要な脂肪酸ですが、摂取量の割合が重要だと言われています。

オメガ 3 系の脂肪酸には α -リノレン酸が含まれていて、体内で DHA、EPA に変換されます。積極的な摂取が進められています。一般に摂取量が少ないので。代表的な油はアマニオイル、エゴマオイルです。加熱に弱いので、私は朝食に作る野菜ジュースに大さじ 1 杯弱程度入れます。

オメガ 6 系は、大豆油やコーン油などいわゆるサラダオイルです。これも以前はリノール酸が体に良いとしてもはやされましたが、現在では取り過ぎに注意ということになっています。サラダ油は揚げ物に使われますが、我が家では揚げ物の油として、キャノーラオイルを使用しています。キャノーラオイルはオメガ 3 とオメガ 6 が 1:2 で含まれています。

オメガ 9 系はオリーブオイルや米油です。今後は炒め物と焼き物に使う油を米油に変えることにしました。これまでは地中海料理の炒め物や焼き物はオリーブオイル、その他の炒め物と焼き物はキャノーラオイルを使っていましたが、テレビの番組で米油には他の油にない有効な成分があると紹介されたので、健康フリークの私は早速飛びついたわけです。

米油にしか含まれていないという成分は「γ-オリザノール」です。強力な抗酸化力が、コレステロールの吸収を抑える作用があるとされています。

そしてトコリエノールです。ビタミン E はトコフェロールとトコリエノールの二つのファミリーから構成されています。そしてトコリエノールは抗酸化物質としてはトコフェロールより強力といわれています。ビタミン E としては、ほぼ毎日アボカドを朝食に食べています。

米油を精製する方法は「圧搾抽出」と「溶剤抽出」がありますが、むしろ「圧搾抽出」を使っています。スーパーに置いてある米油は「溶剤抽出」が多いようです。ですからネットで買います。

揚げ物は好物ですが、あまり作らないようにしています。酸化した油は体に有害であるといわれていますので、もったいないですが一回で捨てます。ただし使うキャノーラオイルの量は揚げ物でカップ 1、トンカツの場合は肉の厚さの半分程度です。そして、できるだけ小さなフライパンを使います。

細かい数字は「料理に使う油のおすすめは？」はわかりやすいでしょう。 <https://syokuzaitakuhai-torisetu.com/good-oil-bad-oil/>

◆俯瞰の書棚“世界史の新常識”◆

今回は「世界史の新常識」文藝春秋 編集 文春新書 2019 です。

この本はいくつかの雑誌に掲載されたコラムを選んで編集したものですので、文体や知識のレベルがバラバラで編集としては荒っぽい本ですが、いくつかの部分は興味深く、目からウロコもあります。冒頭に「新しい時代を生き抜くには、新しい視点で歴史を学び直す必要があります。今の世界をリアルに理解するための世界史」とありますが、同感です。

以下、面白いと思ったところをご紹介します。まず古代編では。

“通常は、戦争に敗れた側が勝った側の文化に憧れる。ところがペルシア戦争に勝利したギリシア人が、敗れた側のペルシア文化を模倣し、ペルシア趣味に耽るという、逆の現象が生まれたのである。

豊かなアジア、貧しいギリシア。なぜギリシア人は、これほどまでにペルシア風を愛好したのか。世界史で習った印象とは逆に、ギリシアよりペルシアの方が、はるかに豊かだったからだ。ギリシアの国土は山がちで痩せており、ブドウやオリーブは育っても、穀物の自給は難しく、一部を除いて貴金属も乏しい。対してペルシア人は、小アジアから中央アジアにまたがる大帝国を築き、農作物から貴石に至る豊かな産物を有していた”“今のペルシア、すなわちイランは豊富な石油もあります”

仏教については。

“禅宗は、六世紀の支那で、荘子思想を読み換えて成立した仏教なのである。ところが皮肉なことに、これが一度ひっくり返って、逆に仏教本来の姿を現している。

その仏教では何を説いているのか。釈迦の「悟った」という思想は何なのか。それは、この世のすべては「無常」だということである。無常とは、恒常、永遠を否定した言葉である。恒常、永遠のものはない、そのことが分からず、これに執着するから迷いとなる。恒常、永遠は、無限、絶対、完全と言い換えてもいい。無常は、これに対し、有限、相対、不完全ということになる。”とありますが、これをカント哲学つなげている点が面白いです。

“カントは、理性は世界の究極に至りえないと考えたが、そうになると、我々人間の行動は何によって根拠づけられるのか、という大問題が浮かび上がってくる。それがカントにとっては「実践理性」であり、ハイデッガーにとっては「決断」であり、サルトルにとっては「投企」である。人間は現実に行動せざるをえない。”

次のくだりも興味深いです。

“これからのEU、あるいはEU諸国の文明の行く末を考える際に、ローマ帝国末期の事情を知ることは無駄ではないだろう。滅亡は難民問題から始まった。フン族に追われたゴート族のローマ帝国への流入を受け入れました。難民受け入れです。

ローマはなぜ滅んだのか、と繰り返し問われて来た。その最大の理由はローマ帝国の滅亡が単なる一帝国の滅亡にとどまらず、帝国という政治組織とともに、ローマの文明そのものも同時に崩壊してしまったからであろう。民衆の大多数がその価値を認め、支持するからこそ文明は存続するのである”

最近とみに弱体化している EU をローマ帝国の滅亡に重ね合わせると確かに面白いです。ルネッサンスに関しても興味深い記述があります。ルネッサンスはこれまでヨーロッパのサクセスストーリーとして位置づけられていましたが、そんな簡単なものではないということです。つまり、これまでは「古代の復活」、「ヨーロッパ人こそが古代ギリシアやローマの文化的後継者である」、「中世からの解放」、「近代の出発点」としてルネッサンスを位置づけてきましたが、ルネッサンスはビザンティン帝国によって始められ、オスマントルコによって継承され、そこからイタリアのルネッサンスに引き継がれたとのこと。

“ビザンティン帝国を倒したのは、オスマン帝国のメフメト二世ですが、彼はプトレマイオスの『地理学』やホメロスの写本などのほか、ヘブライ語、アラビア語の文献も数多く集め、トプカピ宮殿に所蔵しています。率直に言って、当時の西方のラテン語世界と東方のアラビア語世界を比較したら、知識の量、テキストの数いずれで見ても、はるかにアラビア語圏のほうが高い水準にありました”です。

産業革命がイギリス料理をまズくしたという話も面白いです。

“イギリスの食は、大量生産可能な農業牧畜産品、トロール漁業産品と、工業製品で占められるようになる。トロール漁業で水揚げされたタラ・オヒョウと、大量生産されたジャガイモで作られたフィッシュ・アンド・チップスや、同様に大量生産食材を用いたベーコン・アンド・エッグズは、19世紀後半以降の下層階級の栄養状態を改善するのに貢献した。産業化したイギリスは熱量の点では豊かさをもたらしたのだ。かつてあった、蒸す、直火で炙る、遠火で熱するなどさまざまな方法が消失した。また、野菜を生食するサラダも一九世紀前半には消滅し、その後はキャベツ、カリフラワー、にんじんやジャガイモ、カブなど、根菜類を塩茹でしたものをクリーム系のドレッシングで和えた「茹でサラダ」が登場し、調理方法の多様性の低下は料理の味付けにもおよび、調理段階では最低限の塩・胡椒 が用いられるだけとなった”ということです。この調子で紹介しているとキリがないので、最も印象に残ったところを紹介して終わりにします。

日本人はアメリカの歴史を正しく認識していないということです。

“アメリカの史書は中国にとっての「論語」のようなものだと言えはわかりやすい。アメリカの歴史家がそうであって欲しい(欲しかった)母国のありようが描かれているのである”

まず、なぜリンカーンが奴隷解放宣言したかという理由は、初めて知りました。

“アメリカの政治家にとって、英国は潜在敵国であり続けた。アメリカが英国に伍するためには軍事力を高めなくてはならない、そのためには州の権利を抑制してでも連邦政府主導で工業化を強力に進めるべきだ。そう考えたのがフェデラリスト党(連邦党)であり、同党が発展して結成された政党が共和党であった(1854年)。一方で、合衆国はあくまで合州国であり、州の権限を尊重すべきだと考える勢力が民主党(当時の呼称は民主共和党)であった(1824年結党)。彼らはとりわけ各州のプランテーション農業を重視した。

南部諸州は、「英国の政策に追随すれば巨利を得る。アメリカに必要な工業製品は英国から低関税で輸入すればよい」と考えた。民主党は、こうした南部プランテーションオーナーの支援を受けた。一方で英国に伍する強国に変貌すべきだと考える共和党は、工業立国を目指した。そのためには高関税政策(保護貿易)をとり、北部諸州の幼稚産業を保護しなくてはならなかった。

南北戦争が勃発した。このときリンカーン政権が最も恐れたのは、イギリスの軍事介入だった。イギリスは自由貿易帝国主義の重要な歯車となっていた南部諸州を支援したかったのである。そのイギリスの軍事介入を牽制する奇策が奴隷解放宣言(1862年9月)であった。イギリス知識人は奴隷制度を嫌悪していた。そのことはイギリスが1807年には奴隷貿易禁止法を成立させていることからわかる。リンカーン政権に戦いの目的を「奴隷制度廃止」と高々と謳われてしまうと、イギリス政府は金縛りとなった。表立った介入は出来ず、せいぜい南部連合からの武器の注文に応える程度となった”とは驚きです。南部民主党は、一貫して人種差別主義者だったようです。ウィルソン大統領、ルーズベルト大統領、トルーマン大統領いずれも、人種差別主義者だったということも驚きました。“現代の一般のアメリカ人も民主党の歴史を知らない。だからこそ、ウッドロー・ウィルソンもFDRも偉大なる大統領のままなのである”です。

人種差別主義を掲げていた民主党は、次第に共和党に対し劣勢になり、そこで劇的な変化を試みて大成功したとのこと。

“彼らは、過去の民主党の人種差別的行状を覆い隠すために、あるレトリックを使った。人種差別の主体を「アメリカ人全て」だったことにしたのである。民主党が人種差別をしたのではなく、「アメリカという国全体が人種差別的であった」ことにした。このレトリックは呆れるほどに効果的であった。”

いろいろ面白い話が紹介されていて、飲み会や食事会でレベルが高い話題になりますから、ご一読をお勧めします。

◆雑感・私感◆

以上も雑感・私感ですが出来る限り参照データを紹介しています。個人のブログは面白いですが、個人的な偏りがありますからできるだけメジャーなメディアを引用しています。

●トランプ大統領が板門店で金委員長と会談する、軍事境界線を越えるという政治ショーをしましたが、金委員長に完全非核化の意思はなく、トランプ大統領は非核化の推進ではなく再選のポイント稼ぎのショーです。

●ワールドニュースをよく見ますが、フランスの熱波は尋常ではありません。45度を超える猛暑ですから。そのため自然発生的に山火事が発生しています。ほとんどの家はエアコンがありません。すでに手遅れですが、真剣に気象温暖化に取り組む必要があります。

●安倍首相も、カッコいい外交成果を飾って参議院議員選挙に臨む夢は絶たれました。幸い野党があまりにも酷いので不戦勝モードですか。野党を無力化したのは安倍政治の成果です。

●年金 2,000 万円問題は正論ですから、それから逃げる政権はおかしいです。若い人たちはきちっと反応しつつあるようです。証券業界の活性化の意図も見ますが。

●一連の言動を見ていると、麻生財務大臣はいわば日本のトランプですか。各自それぞれ生活水準が異なりますから一概に言えませんが、たとえ厚生年金があっても、それだけで満足できる老後の生活はできません。少しずつ貯金を取り崩していくのですが、人生 80 歳の時代から人生 100 歳の時代に移行すれば、老後に必要な自己資金はかなり増えます。多くの人がこの問題に直面するでしょう。

●それにしても霞ヶ関で覚せい剤の事件が後をたちませんが、実態はもっと悪いのかもしれませんが。その原因はやり切れないストレスの発散かもしれません。エリート官僚が安易にドラックに流れるとは情けないです。公務員が魅力がない職業になって、人材の質が落ちたのでしょうか。とすれば由々しき問題です。

◆内容・記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は下記まで

webmaster@fukan.jp

◆俯瞰 MAIL90 号(2019 年 6 月 30 日)

発行元: 一般社団法人俯瞰工学研究所

発行人: 松島克守

編集長: 松島克守

配信人: 石川公子

URL: <https://www.fukan.jp/>
